

バーチャルカンパニー大起業市場 in 愛知学院大学

アントレプレナーシップ教育に係る知財戦略 検討ワークショップ

1. ワークショップ開催の問題意識

起業家教育研究協議会は、(特活)アントレプレナーシップ開発センターが主催するバーチャルカンパニー・プログラムに参加する大学教員で構成される教育支援者の集まりである。本日のワークショップは、教育実践を行う中で直面する「知財」に関する問題をどのように捉え、いかに解決していくかを検討することが目的である。

そもそも、「アントレプレナーシップ教育」と「知財教育」を考えると、私達、少なくとも愛知学院大学バーチャルカンパニーでは、今までアントレプレナーシップ教育のみに注力してきた。単純化して言えば、学生達によるアイデア創出、簡易計画書を持つての協力企業を見つける活動、賛同いただいた協力企業との製品共同開発、トレードフェア他でのテスト・マーケティング、フィージビリティ調査を踏まえた商品化と販売、等である。教育支援者からは、この一連のプロセスを通じ、学生達が自らのアイデアがどのように商品に至るかを体験しつつ、試行錯誤のプロセスを通じ変化への対応力(集団での構想力と行動力)を修得して行くことを期待してきた。具体的な教育方法は違えども、他大学でも同じようなアントレプレナーシップ教育が実践されてきたといってもよいだろう。

他方、知財教育は、バーチャルカンパニー・プログラムの中ではほとんど行われてきていない(愛知学院大学では学習項目としても挙げてきていなかった)。むしろ、アントレプレナーシップ(起業家精神)涵養を目指し教育目的で導入されてきたため、協力企業側にもそのように説明されてきた。よって、商品化・販売に至った場合、企業側の姿勢は様々であり、学生のアイデアを尊重する企業では大学側に知財管理(商標等)を促す一方で、学習目的だからとの観点から全く学生のアイデアと商品開発への努力を尊重しない企業もある。もっとも、協力企業の多くが中小企業であることも多く、知財管理という観点がそもそもないため、売り上げに貢献していたとしても悪意なく放置されている場合もある(教育支援者の知識不足も大きい)。

かかる現状を鑑みると、2つの点で「知財」をバーチャルカンパニー・プログラムに導入する時期に来ていると考えられる。第1は、学生自らが「考え、提案するアイデアや事業構想」の何が知財管理の対象となるかの判断基準を持つ知財「教育」、第2は、企業と共同開発する場合の知財管理に係る交渉のステップと内容(契約内容等)の知財管理「インフラ」である。

本日の検討ワークショップは、起業家教育研究協議会のメンバーで、アントレプレナーシップ教育を実践し企業側との交渉の矢面に立つ教育支援者に加え、ゲストとして知財管理及び産学連携の専門家に参加いただけることになった。実のある検討会にしたい。

2. 参加者

ゲスト

近藤 邦治 大同大学戦略的・大学等連携室 連携コーディネータ 客員教授
宇都宮洋一 愛知学院大学研究支援センター 知的財産アドバイザー 客員教授

起業家教育研究協議会

黒沢 敏朗 摂南大学工学部 教授（地域連携センター副センター長）
兼本 雅章 共愛学園前橋国際大学 情報・経営コース 准教授
鵜飼 宏成 愛知学院大学経営学部 教授

3. 検討ワークショップ

- 10:00---10:10 開催趣旨説明
- 10:10---10:40 現場担当者が直面してきた（している）問題
ケース1 前橋国際大学（兼本先生）20分
ケース2 愛知学院大学（鵜飼先生）10分
- 10:40---11:00 知財管理のフレームワークと先進大学における教育事例
知財管理のフレームワーク（宇都宮先生）10分
先進大学における教育事例（近藤先生）10分
- 11:00---11:10 休憩（10分）
- 11:10---11:50 検討課題の抽出（フリーディスカッション）
ファシリテータ 黒沢先生
- 11:50---12:00 次年度バーチャルカンパニー実践に向けた対策

検討ワークショップは、6号館1階6110教室で開催されます。